Going! PCO

神奈川

令和7年度入隊予定者が新たな一歩

地本が着隊支援、寄り添いながら安心の門出へ

神奈川地方協力本部は、3月下旬から4月上旬にかけて、令和7年度入隊予定者の着隊支援を実施しました。

本部庁舎などに集合した入隊予定者は、一般曹候補生および自衛官候補生として、陸・海・空自衛隊の各教育部隊へ向け、バスで出発しました。

出発にあたっては、見送りに訪れた保護者や友人、担当の広報官から激励の言葉が贈られ「頑張ってくる」と決意を新たにバスに乗り込む姿が見られました。

入隊を間近に控えたバスの車内では、やや緊張した表情も見受けられましたが、引率した広報官が自身の入隊時の体験談を語ったり、入隊予定者が順に自己紹介を行うなど、和やかな雰囲気づくりに努め、少しずつ緊張も和らいでいきました。

各教育隊に到着後は、受付や身体検査などの手続きを済ませ「服務の宣誓」の時間を迎えます。ここでは、隊長から服務の本旨や宣誓の意義について説明を受けたのち、宣誓書に署名して正式に入隊。仲間と共に、自衛官および自衛官候補生としての第一歩を踏み出しました。

服務の宣誓をもって、地本の着隊業務は完了しました。広報官は、新たな環境での訓練に臨む彼らにエールを送りつつ、ゴールデンウィークの帰省時には、ご家族へ元気な姿を見せてほしいこと、そして可能であれば母校を訪問し、先生方や後輩たちへ入隊の報告や自衛隊のPRを行ってほしい旨を伝え、現地を後にしました。

なお、神奈川地本では、入隊者が安心して新生活をスタートできるよう、広報官や関係者が寄り添い、きめ細やかな支援に努めています。ご家族の皆さまにおかれましても、どうかご安心いただき、温かく見守っていただければ幸いです。

本部庁舎前での入隊予定者見送り

岩手

令和7年度第1次予備自衛官招集訓練を実施

処遇改善の説明と即応予備自衛官の志願促進も

岩手地方協力本部は4月20日、盛岡合同庁舎において「令和7年度第1次予備自衛官招集訓練（1日間）」を実施しました。

この訓練は、任期満了などにより退官後1年未満で予備自衛官に採用された方を対象に、初年度に行われる招集訓練です。

当日は6人の予備自衛官が招集に応じ、訓練開始にあたり服務の宣誓を行いました。

その後、菅原本部長より、各種事態における予備自衛官の役割の重要性や、必要な練度の維持・向上への期待についての訓示がありました。

また、地本担当者からは、昨年末に開催された「自衛官の処遇・勤務環境改善及び新たな生涯設計の確立に関する関係閣僚会議」における議論内容を紹介し、予備自衛官に対する処遇改善の検討状況を説明しました。

これにより勤務意欲の向上を図るとともに、即応予備自衛官の応募資格を持つ参加者に対しては、個別面談や心情把握を行い、志願促進にも努めました。

参加者の多くは、予備自衛官として初めての出頭ということもあり、当初は緊張した面持ちでしたが、なじみの仲間との再会を通じてすぐに打ち解け、和やかな雰囲気の中で訓練に励む様子が見られました。

即応予備自衛官応募資格者との面談

茨城

「25式機動広報車」始動！

茨城地本が広報強化へ　地域広報に新たな一手

茨城地方協力本部は4月14日、新たな広報用車両「25式機動広報車」を導入し、同日より運用を開始しました。

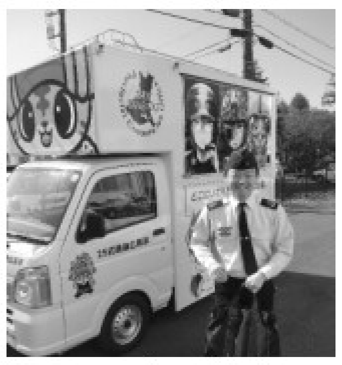
この車両は募集態勢の強化を目的に導入され、茨城県内の過疎地域や、募集対象者が多く集まる地域に機動的に展開し、走行によって自衛隊の認知度向上を図ります。

さらに、市街地広報や各種イベントでも活用される予定です。車両は、目を引く黄色を基調に装飾され、茨城地本のマスコットキャラクター「にゃっとら」や、イラストレーター・ながるー先生による描き下ろしキャラクター「ジェイシールズ」「アイピース」のデザインが施されています。

令和7年度限定で、県内各地の広報活動に活用される計画です。

また栗秋本部長は、通勤・通学時間帯にこの車両を使用して登庁し、地域の方々に向けた広報活動の一環として茨城地本のPRに努めています。「25式機動広報車を見かけた際には、ぜひSNSでシェアしていただけるとうれしいです」と、本部長も意気込みを語っています。

茨城地本では、25式機動広報車の活用を通じて、広報活動をより身近で親しみやすいものとし、地域とのつながりを一層深めていく方針です。


SNSでシェアしてね

熊本

大型商業施設で募集・広報イベントを開催

装備品展示や体験コーナーに約800人が来場

熊本地方協力本部は2月22日、菊池郡菊陽町の大型商業施設「ゆめタウン光の森」の駐車場で、募集・広報イベントを開催しました。同施設は県内最大級のショッピングモールで、多くの専門店や映画館が併設され、日頃から多くの人で賑わっています。

また、施設のご厚意により、数年前から店内の一角に自衛官募集ブースを開設し、広報活動を続けています。昨年のイベントでは、屋内で実施した自衛隊ファッションショーが好評だった一方、屋外での装備品展示は大雨の影響で来場者が少なかったため、今回は天候に恵まれることを期待していました。

当日は「曇りのち晴れ」となり、今年一番の寒気で冷たい風が吹きつける厳しい天候でしたが、それにもかかわらず多くの来場者が訪れました。会場では、各部隊の支援を受け、16式機動戦闘車や中距離多目的誘導弾など計6両の装備品を展示しました。

来場者は記念撮影を楽しんだほか、観測用ヘリコプターや偵察用オートバイの展示も人気を集めました。

さらに、北熊本駐屯地曹友会の協力による射的コーナー、ミニ制服試着、キッチンカーによる飲食販売、店内での自衛隊熊本地方協力本部のマスコットキャラクター「ゆうポン」の呼び込みなど、多彩な催しが行われ、約800人が来場しました。

来場者からは「最近自衛隊のイベントが多いですね。次はどこで開催ですか？」「熊本地本のSNSを見て来ました。頑張ってください」といった声が寄せられ、地域の皆さまが自衛隊に関心を寄せていることを改めて実感しました。

また、施設側からは「地域貢献の一環として、今後も自衛隊と良い関係を続けていきたい」との言葉をいただき、自衛隊に対する理解促進の一助となりました。

人気の観測用ヘリコプター

福島

日米の絆を音楽でつなぐ

アメリカ空軍太平洋音楽隊のコンサートを支援

福島地方協力本部は3月25日、相馬市民会館において相馬市が主催する「アメリカ空軍太平洋音楽隊Final Approach コンサート in SOMA」を支援しました。

このコンサートは、東日本大震災の発生以降、アメリカ軍が継続して実施しているもので、音楽を通じて日米の絆を深めることを目的としています。

当日は約650人が来場し、会場は大いに賑わいました。天候にも恵まれ、開場前から多くの来場者が列を作るなど、コンサートへの期待の高さがうかがえました。

会場ロビーでは、陸上自衛隊第6師団第44普通科連隊の支援のもと、福島地本が広報ブースを展開しました。ブースでは、東日本大震災発生時におけるアメリカ軍の「トモダチ作戦」や、自衛隊による相馬市での活動状況を紹介するパネルを展示し、当時の日米の連携について来場者に分かりやすく伝えました。

コンサートが始まると、アメリカ空軍太平洋音楽隊の一部隊員で構成されたグループ「Final Approach」によるダイナミックで力強い演奏と、ボーカルの艶やかで伸びのある歌声が会場に響き渡り、聴衆を魅了しました。

また、主催者あいさつの中で、相馬市より福島地本がコンサートの協力者として紹介され、地方公共団体と自衛隊との連携を来場者に印象づける機会ともなりました。

来場者からは「本場のジャズやロックの演奏に大変感動した」「リズミカルでダンサブルな演奏に自然と体が動いた」といった声が寄せられ、コンサートは大盛況のうちに幕を閉じました。

力強い演奏と艶やかな歌声で聴衆を魅了

静岡

静岡まつりで広報活動を実施

駿府城公園でブース開設、展示と体験で魅力発信

静岡地方協力本部は、4月4日から6日の3日間、静岡市の駿府城公園などで開催された「第69回静岡まつり」において広報活動を実施しました。

静岡まつりは、江戸時代の風情を再現した行列やパフォーマンスが市内各地で展開される、静岡市を代表する春の一大イベントです。今年は3日間で推計69万人が来場しました。

静岡地本は、陸上自衛隊第34普通科連隊（御殿場市）、自衛隊家族会、隊友会、自衛官募集相談員と連携し、メイン会場の駿府城公園内に広報ブースを出展。満開の桜の下、多くの来場者が立ち寄る中で災害派遣活動のパネル展示や南極の氷、偵察用オートバイの展示、防災クイズ、手旗信号体験、迷彩服の試着・記念撮影など、多彩なコンテンツを通じて自衛隊の活動を身近に感じてもらう機会となりました。

また、静岡地本のマスコットキャラクター「しずぽん」も広報ブースやステージイベントに登場。迷彩帽をかぶった愛らしい姿でPR活動を行い、地元キャラクターとのコラボや子供たちとの記念撮影にも応じるなど、常に人だかりができるほどの人気を集めていました。

広報ブースでのPR活動

大阪

新たな一歩、桜の下で誓う決意

大阪地本から43人が陸自大久保駐屯地で入隊式

大阪地方協力本部は4月6日、陸上自衛隊大久保駐屯地で実施された自衛官候補生入隊式に参加しました。

大阪地本からは毎年多くの自衛官候補生が入隊しており、中部方面区内の各駐屯地・基地で入隊式を迎えています。今年は大久保駐屯地に、大阪地本から43人の若者が入隊しました。

入隊式当日は、着隊以来となる家族との再会を喜び合い、真新しい制服姿で満開の桜の下、記念撮影を楽しむ姿が多く見られました。

式典前のひとときには、久しぶりの家族との懇談を楽しむ様子が印象的でした。その後、駐屯地体育館で入隊式が実施されました。

整列や敬礼の動作も見違えるほど整い、ご家族の多くがその成長に目を見張っていました。中には感激のあまり涙をぬぐう姿も見受けられ、会場は温かな空気に包まれました。

式後の祝賀会食では、自衛官候補生一人一人が「この3カ月でもっと成長した姿を見せたいです」「絶対にやり切って立派な自衛官になりたいです」といった初々しくも力強い決意を語り、同席したご家族や教育を担当する隊員からは、大きな拍手と笑顔が送られました。

候補生たちはこの後、3カ月間の基礎教育を受け、厳しい訓練に臨みます。今回の入隊式を通して深めた家族への感謝の思いや、自らの決意を胸に、同期とともに困難を乗り越えていくことでしょう。

大阪地本では、彼ら一人一人が無事に2等陸士として巣立てるよう、広報官をはじめとする全職員が引き続き寄り添い、全力で応援していきます。

同期・家族と共に記念撮影

福井

若狭町で海自舞鶴音楽隊の演奏会を開催

遺徳を偲び、郷土の誇りを音楽に込めて演奏

福井地方協力本部は4月15日、福井県若狭町の複合施設「パレア若狭」において、海上自衛隊舞鶴音楽隊の支援を受け、若狭町が主催する「海上自衛隊舞鶴音楽隊演奏会」の開催に協力しました。

この日は、国産第1号の潜水艇「第6潜水艇」の艇長を務めた若狭町出身の佐久間勉艇長の命日にあたり、その遺徳をたたえる顕彰式典の一環として、2023年からこの演奏会が実施されています。佐久間艇長は1910年、山口県新湊沖で発生した潜水艇事故において、乗組員と共に殉職。その冷静かつ責任ある行動を記した遺書は、現在でも多くの人々に感動を与えています。当日は平日にもかかわらず、会場の収容人数を超える申し込みがあり、町内の中学生122人も招待されるなど、地域の関心の高さがうかがえました。

演奏会は2部構成で行われました。第1部では、舞鶴音楽隊演奏班長のタクトに導かれ、男性隊員による「佐久間艇長の歌」をはじめ「艦隊勤務」など、海自や海の防人にちなんだ楽曲が披露され、佐久間艇長の生き様や使命感を音楽で表現する内容となりました。

続く第2部では、舞鶴音楽隊長の指揮で、ジャズを中心とした軽快なナンバーが演奏され、隊長自らが作曲したオリジナル曲も披露。隊員たちの高い演奏技術と表現力が来場者を魅了しました。終始温かな雰囲気に包まれた演奏会は、割れんばかりの拍手とともに閉幕。

演奏を聴いた中学生は「迫力ある演奏だった。偉大な先人がいて誇らしく感じた」と語っており、佐久間艇長の遺徳を次代へと伝える貴重な機会となりました。

男性音楽隊員による楽曲披露

宮城

仙台駅で感謝祭と広報イベントを同時開催

柔道メダリストも登場し、自衛隊の魅力を発信

宮城地方協力本部は2月3日と9日の両日、JR仙台駅を中心に「宮城地本感謝祭」と「フレンドシップキャンペーン」の2つの広報イベントを連携して実施しました。

これは、駅東口の募集案内所と構内のイベントスペースを一体的に活用し、多くの通行者や来場者に向けて自衛隊の活動や魅力を伝えることを目的とした取り組みです。

「宮城地本感謝祭」では、ヘリコプター体験搭乗券が当たるガチャガチャ抽選コーナーをはじめ、来場者が楽しめる企画を多数展開。中でも、パリオリンピック柔道銀メダリストの新添左季2等陸尉（自衛隊体育学校）の来場は大きな注目を集め、イベントに一層の華を添えました。

2日間で約300人が案内所を訪れ、地本との距離を縮める機会となりました。

一方、「フレンドシップキャンペーン」では、駅構内の大型ビジョンで自衛隊採用広報動画を放映したほか、ブルーインパルスのパイロットによる即席サイン会を実施。連絡通路には自衛官採用ポスター（全11種類・32枚）を掲示し、多くの通行者の目を引いていました。

JR仙台駅は東北最大の交通拠点で、1日平均約9万人が利用する場所です。駅全体を舞台とした今回の取り組みは、立地を最大限に生かした広報活動として、多くの人々に自衛隊の存在や親しみやすさを伝える貴重な機会となりました。

感謝祭で新添選手と記念撮影

フレンドシップキャンペーンでサイン会

群馬

中学生と陸自第12音楽隊が共演

音楽で広がる地域と自衛隊のつながり

群馬地方協力本部前橋募集案内所は2月11日、渋川市民会館で開催された「第2回子どもたちとつくる音楽会」を支援しました。

この音楽会は、渋川市・吉岡町・榛東村の中学生に、音楽を通じた豊かな体験を提供しようと企画されたもので、渋川ロータリークラブや各教育委員会、学校関係者などで構成された実行委員会によって開催されました。

演奏会に向けた準備は、令和6年12月からスタート。中学校9校の吹奏楽部員約110人が参加し、陸上自衛隊第12音楽隊（隊長・1等陸尉　富田淳子）による演奏指導を受けました。

第1回練習会では、パート別に呼吸法や譜読み練習などの基礎指導を実施。生徒同士の交流も盛んに行われました。第2回練習会では、全体での合同練習により演奏の流れやステージ配置を確認し、本番に向けたイメージを共有しました。

参加した生徒たちは「分かりやすく楽しかった」「大人数での演奏は新鮮だった」などと話し、練習会からも多くの学びを得ていました。当日は午前に最終調整を行い、生徒たちは緊張しながらも、第12音楽隊との交流やリハーサル観賞を通じてリラックスし、本番へと気持ちを高めていきました。

前橋募集案内所は、ホール外のホワイエに広報ブースを設置し、災害派遣活動に関するパネル展示などを実施しました。

演奏会では、生徒と音楽隊員あわせて総勢150人による迫力ある合同演奏が披露されました。保護者や学校関係者からは「子供たちが楽しそうに演奏していて感動した」「演奏以外にも多くの学びがあった」といった声が寄せられました。

災害派遣活動のパネルに見入る生徒

岩手

迫力ある自衛隊を体感してもらう機会に

創隊記念行事の予行を活用し、若年層に自衛官を発信

岩手地方協力本部は4月4日、宮城県柴田郡にある陸上自衛隊船岡駐屯地で実施された「第2施設団創隊64周年・船岡駐屯地創設66周年記念行事」の総合予行見学に、募集対象者など16人を招待しました。

この見学会は、自衛隊に関心を持つ方々に「体験・体感型」の機会を提供しようとする取り組みの一環として実施されたもので、岩手地本が「毎年行われている記念行事を広報活動の場として活用できないか」と部隊に提案したことにより実現したものです。

一番の大きな特徴は、一般公開時に見られる混雑を避けて参加者がゆっくりと見学できる環境が整っている点にあります。この利点を生かして、自衛官の姿やその動き、息づかいまでをも間近で観察し、その迫力を肌で感じてもらうことができました。

見学内容は、訓練展示（模擬戦）の観覧や自衛隊車両の前での記念撮影に加え、東日本大震災でも使用された、地雷敷設装置と水陸両用車両で構成される「94式水際地雷敷設装置」への体験搭乗など、多彩なプログラムが用意されており、参加者は陸上自衛隊の活動に直接触れる貴重な時間を過ごしました。

参加者からは「今回、自衛隊のイベントに初めて参加しましたが、最初から最後までとても楽しかったです。自衛官として働いてみたくなりました」といった感想も寄せられ、有意義な広報活動の場となりました。

94式水際地雷敷設装置への体験搭乗

ひとりで悩まずご相談下さい！

自衛隊家族会は
★決して会員をひとりにはしません！
★いつもそばにおります！
★解決に向けてみんなで汗をかきます！

まずは、近くの家族会会員へ。
そして、お気軽に「問い合わせ窓口」へ。

1　「問い合わせ窓口」への問い合わせ先・要領

自衛隊家族会事務局（担当）　髙橋　隆志（たかはし　たかし）
◇電　話：03－5227－2468　（平日　09:00～16:00）
◇メール：jkazokukai@jkazokukai.or.jp　（常時、ただし返信は平日）

「総括相談員」　鍛治　雅和（かじ　まさかず）
◇番　号：080－4630－8987　（平日　09:00～16:00）

○ 問い合わせ者は、まず「氏名（匿名可）」「所属家族会（部隊等）」など述べた後に、必要な「問い合わせ」を実施して下さい。不在時には「相談員」から電話しますので、事前に「非通知設定」の解除をお願いします。
○ ご不明な点は、高橋までご連絡下さい。

2　問い合わせ　「相談員」

役職・氏名	担当内容
家族会運営委員（陸自OB） 手塚　信一（てづか　しんいち）	◇家族（隊員）に関する問い合わせ（主に陸上自衛隊）
家族会理事（海自OB） 鍛治　雅和	◇家族（隊員）に関する問い合わせ（主に海上自衛隊）
家族会理事（空自OB） 荒木　淳一（あらき　じゅんいち）	◇家族（隊員）に関する問い合わせ（主に航空自衛隊）
家族会副会長（陸自OB） 宮下　寿広（みやした　としひろ）	◇家族会全般に関する問い合わせ
家族会事務局員　髙橋　隆志	◇家族会の管理に関する問い合わせ

相談無料！　個人情報・秘密厳守！　問題解決実績多数！